

令和5年産小麦の作況と麦類の当面の技術対策

技術支援課
(普及指導室)

生育の概況	播種時期の降雨により播種が遅れたほ場の生育は遅れているものの、適期に播種されたほ場の生育は順調で、やや早まっている。
作業の進捗状況	麦踏み、除草剤散布、追肥

1 気象経過 (前橋橋地方気象台データの平年比、2月は20日まで、参考資料参照)

項目	11月	12月	1月	2月
平均気温	+2.0℃	±0.0℃	+0.6℃	+1.6℃
降水量	122%	55%	15%	63%
日照時間	106%	99%	102%	87%

2 生育概況

(1) 概要

播種作業は概ね順調であったが、11月5半旬の降雨のため播種が遅れたほ場が散見され、一部で12月まで行われた。適期に播種されたほ場の出芽は良好だが、播種が遅れたほ場では12月中旬以降の低温・乾燥のため出芽までに多くの期間を要するとともに一部で出芽不良が見られており、播種時期による生育差が大きい。

12月中～下旬および1月下旬の低温と乾燥により生育の停滞が見られたものの、他の期間は気温が高かったため、適期に播種されたほ場では草丈・茎数とも概ね平年並み、生育はやや早まっている。大麦を中心に一部で乾燥による下葉の黄化が散見されているが回復傾向にある。

(2) 病害虫・障害等の発生状況

病害虫、湿害は平年より少ない。

雑草は、スズメノテッポウ、ネズミムギ、ヤエムグラ、ミチヤナギ、カラスノエンドウの発生が一部で多い。

大麦では乾燥による葉先枯れが見られ、小麦の一部でも散見される。

(3) 作況ほ等の調査結果

作況ほの播種期の平均は11月21日(過去平均比+1日遅い)、2月20日現在の草丈の平均が10.6cm(同103%)、茎数の平均が781本/m²(同92%)となっている。

農業技術センターの生育基本調査結果(小麦「さとのそら」、11月16日播種)では、2月10日現在、草丈が8.4cm(過去10カ年平均比105%)、茎数が553本/m²(同118%)となっている。

(4) 作柄のまとめ

小麦の作柄は、各地区とも全て「並」であることから、県内の平均作柄は「並」が見込まれる。

表 1 小麦作況ほ調査結果（さとのそら）

地 区	播 種 期	12月20日		2月20日	
		草 丈 cm	茎 数 本/㎡	草 丈 cm	茎 数 本/㎡
平 均	11月21日(+1日)	7.4(102)	217(94)	10.6(103)	781(92)
前 橋 市	11月26日(+6日)	5.4(84)	178(87)	8.8(99)	692(81)
伊勢崎市	11月26日(+8日)	6.2(64)	118(72)	9.2(96)	676(78)
高 崎 市	11月16日(+1日)	11.7(120)	200(78)	13.0(109)	975(81)
太 田 市	11月26日(-3日)	5.2(90)	273(117)	10.0(101)	676(140)
千代田町	11月19日(0日)	10.1(111)	192(54)	11.9(128)	891(61)

*各地区の()内は過去の平均値に対する日数および比率(%)。

日数の「-」は早い、「+」は遅いことを示す。

過去の平均値は、前橋市は過去10年、伊勢崎市は同1年、高崎市は同3年、太田市は同10年、千代田町は同1年の値。伊勢崎市、千代田町は県平均から除外した。

表 2 普及指導課・地区農業指導センター管内の麦類の作柄概況

地 区	県平均	中 部	伊勢崎	西 部	東 部	館 林
作柄概況	並	並	並	並	並	並

3 技術対策

(1) 追肥

茎立期前に追肥を実施し、収量・タンパク質の安定と向上を図る。特にパン用小麦では、出穂期頃に葉色が淡い場合は窒素成分で2～4kgの追肥を実施し、タンパク質含量の向上を図る。

追肥量は10a当たり窒素成分で「さとのそら」が2～4kg、「つるぴかり」「ゆめかおり」が2～3kg、「きぬの波」が4～6kgを目安とする。本年は少雨傾向で推移しているため、ほ場が過乾燥状態の場合は肥効が低下する点に留意する。

(2) 麦踏み

凍上害・凍霜害・乾燥害の防止、分げつ促進および倒伏防止を図るため、麦踏みを茎立期前まで実施する。

近年は登熟期の枯れ熟れが多いことから、麦踏みの実施により根張りの向上と保水性の向上を図る。ただし、土壌水分が高い場合は作業を見送るとともに、湿田での過剰な麦踏みは避ける。

(3) 排水対策

近年は、気象条件が極端化する傾向にあり、生育中に大雨に見舞われる場合があるため、排水溝の確認や連結部分の手直しを行い、大雨時の速やかな排水を図る。

(4) 病虫害対策

赤かび病の感染を防ぐため、ほ場周囲に放置された稲わら等を除去し、畦畔を含めたイネ科雑草の防除を行う。

(5) 雑草対策

今後、麦や雑草の生育が急速に進むことから、草種や生育状況を確認し、殺草限界を超えないよう適切に処理する。

【参考資料】

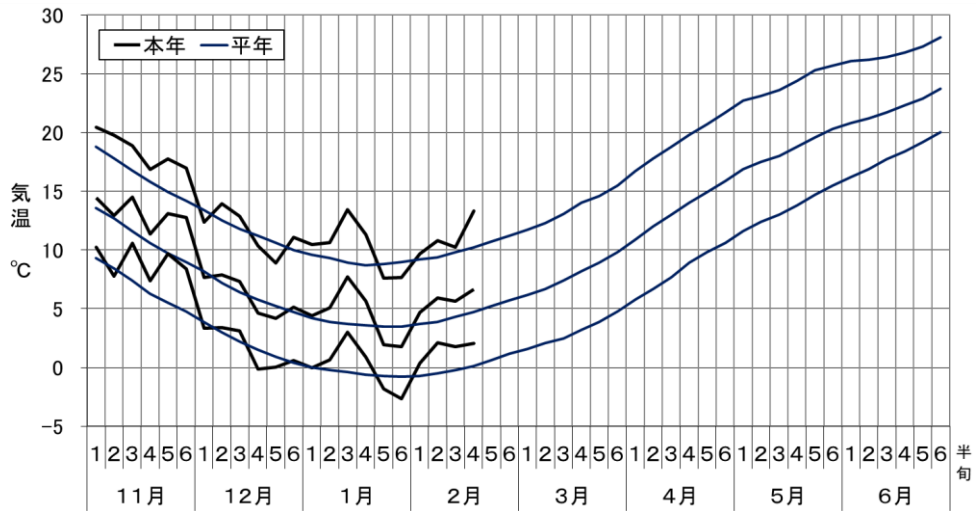


図1 麦作期間の気温（前橋地方気象台）

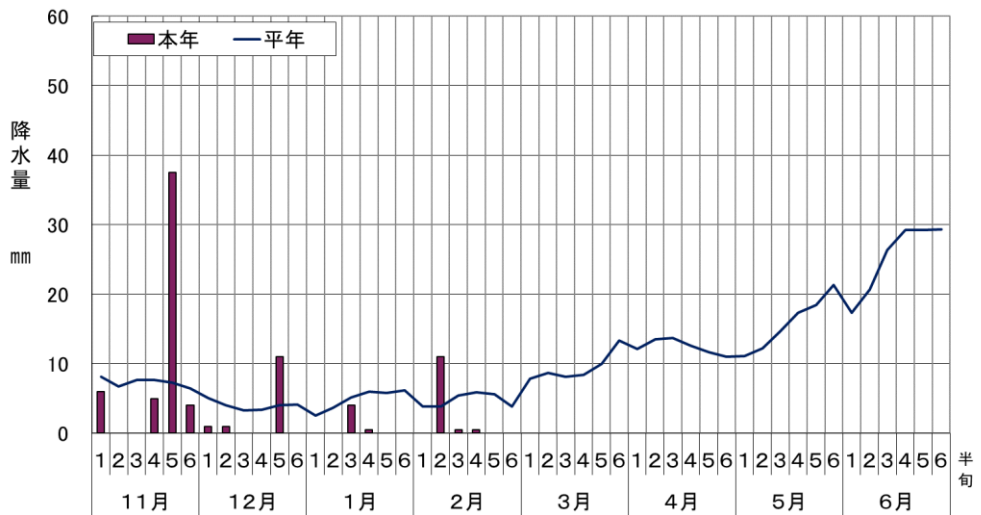


図2 麦作期間の降水量（前橋地方気象台）

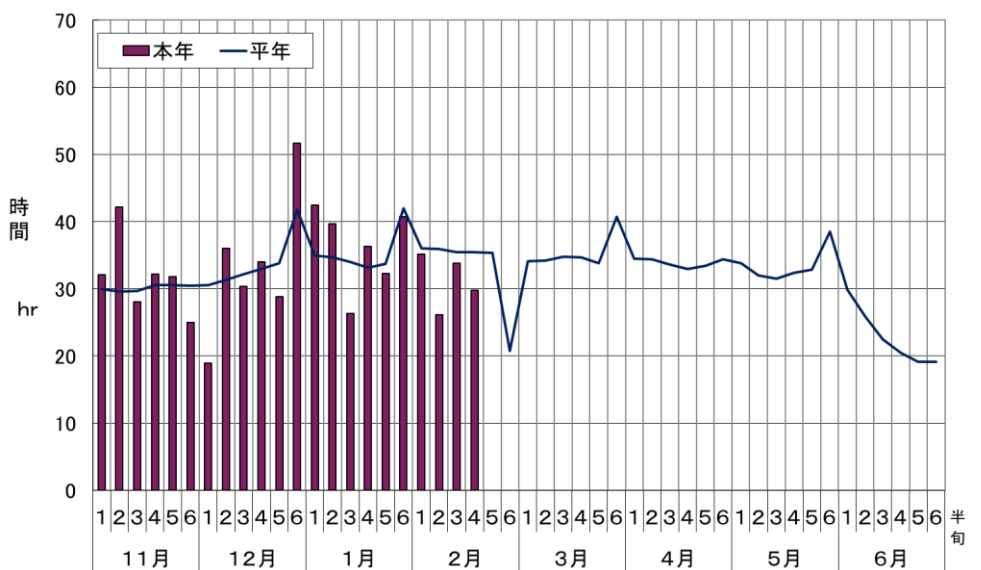


図3 麦作期間の日照時間（前橋地方気象台）